

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
大神山公園	(指定管理者名)公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1 ~ R5.3.31(7年間)	

2 施設名	3 収支(単位:千円)				
大神山公園	項目	令和4年度 金額	令和3年度 金額	令和2年度 金額	公園別支出額 大神山公園:64,154
	収入計	64,811	64,113	63,685	
	内 指定管理料	64,811	64,113	63,685	
	内 利用料金		0	0	
	支出計	64,154	62,566	63,499	
	収支差	657	1,547	186	

4 管理運営の概要

**○新型コロナウイルス感染症拡大予防措置に係る取組**  
 ・トイレや水飲み場に石鹸等を設置し、園内でのうがい手洗い消毒、咳エチケット、ソーシャルディスタンスの確保の呼びかけ等の対策を徹底しました。イベント開催や都民協働作業の際には、検温、接触確認アプリへの登録を呼びかけ、安全に実施しました。

**○3年ぶりに「ピオ・アース映画祭」開催！世界自然遺産小笠原から発信する地球環境問題啓発活動**  
 ・3年ぶり2度目の開催となるピオ・アース映画祭は、子どもから高齢者まで誰もが地球規模での環境問題を感じられる作品を選定し、「皇帝ペンギンへただいま」「ネイチャー」の2作品を上映しました。コロナ禍でも安心して鑑賞できるよう予約サイトを立ち上げ、都の基準よりも厳しい2m間隔で座席を配置し、151人に楽しんでいただきました。アンケートでは「映像と音の綺麗さに感動した」「自然のことを考えるきっかけになった」「是非またやってほしい」などの声をいただき、大変好評でした。  
 ・小笠原警察や小笠原海上保安署と行う**マイクロプラスチック回収・啓発活動では、新たに社会福祉協議会と連携し、合わせて約400人の島民とともに地球規模の環境問題に取り組むことができました。**海ごみゼロウィークでは世界自然遺産センターやNPO法人BOISSと連携し、来島者含む32人の参加者とともに島内の海岸清掃を実施し、約3㎡の漂着ごみを回収しました。これらの取組は、**海ごみ問題に取り組むCLOMA事務局と連携した「SDGs Week EXPO 2022」「グリーンマテリアル展」、公園協会のスケールメリットを活かした小峰公園収穫市、神代植物公園、葛西臨海公園等でのパンフレット配布により、島外で広く周知することができました。**  
 ・平日毎日投稿しているTwitterでは投稿担当者がプロカメラマンによる写真撮影の講座を受講し、投稿する写真の質を上げることでフォロワー数は令和3年度比120%の1900人から2500人に増加しました。職員が撮影したアオウミガメと観光船「ばしふいっくびいなす」の写真は観光船の広報担当者からパンフレットに採用したいと問合せがあるほど好評でした。

**○子どもたちが育む公園、そして、子どもたちを守り育てる公園としての取組**  
 ・小笠原小学校と連携した「公園を作ろう」も4年目となり、小学4年生が行った園地デザインの中で意見の多かったラウンドベンチを採用して設置、**子どもたちの手で固有種の植栽工事**を行いました。小笠原高等学校と連携してギンネムなどの外来種駆除とテリハハマボウやアカテツなどの固有種の植栽をする授業も継続実施。北入口からヒメツバキの谷へ向けて開拓し、**「小笠原高校の森」を拡大**しました。参加した児童や生徒には「大変だったけど植栽地がきれいになって良かった」とやりがいを感じてもらうことができ、**公園づくりを通じて故郷父島への郷土愛を醸成**することができました。  
 ・南海トラフ沖地震を想定し、**新たに小笠原小学校と連携した地域連携避難訓練**を行いました。津波被害を想定し、避難所に指定されている小中学校から大神山地区の駐車場まで、職員が教職員と連携しながら避難誘導しました。また、児童全員と教職員、保護者に関係各所の連絡先を記入した緊急連絡カードを配布し、**島の防災拠点としての役割を果たしました。**  
 ・コロナ禍で令和4年度も中止になった小笠原村主催の**こどもまつりの代わりに、お祭り広場で大神山公園サービスセンター主催のハロウィンフェスティバルを開催**しました。ステージ上に**環境に配慮したソーラーライト、ソネングラスなどで装飾**を行い、小笠原ならではのフォトスポットを創出、子どもたちが仮装して撮影した写真はSNSなどに投稿され話題となりました。来園した家族連れなどに職員がオガサワラオオコウモリの生態をイラスト付きのパンフレットを活用して解説し、**固有種の保護・保全活動も同時に行う場としても活用**しました。

5 管理状況(維持管理)  
 ・アオウミガメの産卵巣保護を、令和4年度も小笠原海洋センターと連携して実施しました。大村海岸では過去5年間で最高の238の産卵巣を確認し、ウミガメの生育環境保護・保全の効果が表れていることが分かりました。8月と2月に計8日間行う村内一斉ネズミ防除では小笠原村と連携し、園内35箇所にご罠を設置して駆除を実施しました。令和3年度に導入したQGISを活用して捕獲データを比較検討することで、オカヤドカリなどの混獲も減り、クマネズミの捕獲数が1.3倍になりました。  
 ・協会独自の講習を受けた樹木点検員による年に4回の樹木点検と、その結果を基に樹木別に作成する診断カルテを使用して本社樹木医が樹木診断を行いました。その上で、**ハスノハギリの大径木を島内の樹木医に精密診断を依頼し、令和5年度の剪定計画を立てることができました。**また、6月の大規模剪定工事時には作業の安全性を確保するため、**本社技術担当者が来島し、公園協会独自の安全管理マニュアルに基づき委託業者へ安全講習を実施**しました。作業中の監督もしっかり行い、安全に剪定工事を完了することができました。さらに、令和3年度の島内樹木医による樹木診断を基にした剪定計画により、**ガジュマル2本とテリハボク1本の強剪定を実施**しました。12月にはガジュマルにつば堀式による寒肥を実施し樹勢を回復させることができました。小笠原支庁と連携した台風被害予防剪定では**近隣店舗境界部分の高木8本を剪定**し、これなら台風が来ても安心だとの言葉をいただきました。  
 ・巡回調査と定期点検により経年劣化が進み、漏水の危険のある給水管を発見したので、旧管理棟から冒険遊戯広場への**急斜面にある給水管を更新し、漏水による土砂流出を未然に防ぐ**ことができました。また、一部利用者の多い**ゲゲゲハウスの照明をLEDに交換**したことにより、電球交換頻度を減らして**公園施設の長寿命化を促進**しました。利用者からは「これまでより明るくなって夜間の利用がしやすくなった」と喜んでいただくことができました。

6 利用者アンケート結果  
 実施方法：公園内で調査票を配布・回収/QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
大神山公園	4.8	4.7	4.5	4.8	4.6

7 入園者数の状況(単位:人)		
施設名	当該年度	分析
大神山公園	395,388	世界規模の環境問題に資する取組を行い、島外での広報により、小笠原の魅力を広く発信しました。
合計	395,388	





## 海洋島にある都市公園として地域防災を牽引！



### 島っこ達を守る地域連携防災訓練

南海トラフ沖地震による大津波に備え、**新たに小笠原小学校と連携した避難訓練**を実施。

避難所である小学校からさらに高台にある大神山地区の公園駐車場まで、職員が全校児童を安全に避難誘導。



足元に注意して  
落ち着いて  
避難しましょう！

全員無事に避難完了！



参加した児童全員と保護者、教員の計約**150**人に関係各所の連絡先を記入し、防水加工した緊急連絡先カードを配布。**地域課題である津波発生に備えた実践的な訓練**で、地域防災力を向上！

## 父島から世界へ…島民とともに守る豊かな海洋環境



### みんなでごみ拾い&みんなで学ぶ

警察、交通少年団、海上保安署と行うマイクロプラスチック回収・普及啓発活動には、**新たに社会福祉協議会が加わり**（年間**50**回実施）、**海洋ごみが海の生態系に与える影響**を普及啓発。

### アオウミガメの産卵場所を守る！

小笠原海洋センターとの連携による**アオウミガメの産卵巣の保護活動**では、令和4年度は**過去5年間で最高の238**巣を確認！

長年に亘り公園で取り組んできた生育環境の保護・保全活動の成果を実感。

参加人数 **400** 人 (昨年度比**133%**)

海がきれいになった♪



普及啓発チラシ

安心して産卵できます♥



### 島外での広報活動で世界に発信

CLOMA事務局の協力で「SDGsWeek EXP02022」（来場者**6万人**）と「グリーンマテリアル展」（来場者**4万人**）で、マイクロプラスチック回収活動の普及啓発のため、**動画の上映、チラシの配布**を実施。

公園協会のスケールメリットを活かし、神代植物公園大温室の小笠原コーナー、小峰公園収穫市でもパンフレットを設置し、活動をPR。

